



明治三十二年
度豫算ニ関スル
財政方針

秋



114
A1434
1



明治三十二年及豫算ニ関ス
財政方針

本邦ノ財政ハ近時非常ノ膨張ヲ為シ
財政ノ為メニ強ト一般經濟如何ヲ顧ルノ
進ナキ状態ヲ以テ暴進ニ明治二十八年
度以前ニアリテハ八九千万圓ノ間ヲ昇
降シタリシ經費モ二十九年年度ニ於テハ
俄ニ増加シテ壹億六千餘万圓トナリ三
十年年度ニ更ニ貳億貳千餘万圓ニ
増加シ三十一年度ニ及ヒ其モ減ス所ナ
キノミナラス却リテ貳億三千餘万圓ノ巨
額ニ達シタリ
憲政党内閣ノ手ニ為レル明治三十二年及豫

算ニ於テモ非常ノ節約ヲ勉メ凡クニ関ラ
ズ經費ノ上ニ巨額ノ削減ヲ冀セリテ遺憾ト
ス而シテ其金額ハ或モ三千餘万円ト上ラ
トス斯ノ如キ經費ノ増加ヲ素ニモ所以
トス一八二七八年ノ事件以後非常ノ連
力ヲ以テ進ニモノ物價賃銀ノ騰貴ニ俾スヘ
一ハ戰勝ノ結果及ビ改正條約實施ノ為メ
我邦ノ位置ニ一大變化ヲ生シ諸般ノ經營ヲ
為スノ必要アルニ由ル換言スレバ財政ノ膨張
之ニ因ハ所謂戰後ノ經營ノ外ナラス孰中
特ニ巨額ノ増費ヲ為シ凡ハ陸海軍ニ関ス
經費ナリトス明治二十八年及以テ前ニアリテハ
帝ニ二三千万円ノ間ニアリシモ二十九年及

ニ於テハ七千三百餘万円トナリ二十年
ハ壹億九百餘万円トナリ三十一年度ハ終
ニ壹億貳千餘万円ト達シテ明治三十二年
度豫算ニ於テモ亦壹億餘万円ト上ラントス
國防ノ事ノ凡ハ國家ノ生存ニ関シ其苟且
ニ付スヘカラスヤ論ヲ待テ又此ノ如ク一時軍
事費ノ巨額ニ上リ凡クモ其過半ハ臨時
經費ニ屬スルモノナルヲ以テ他日既定行
完了ヲ告クルト共ニ自ラ減少スヘトト雖モ一
般經濟ノ上ヨリ見ルトキハ軍費ヲサスルモハ
其本質ニ於テ殖産ト相容レサシク以テ溢
之ヲ増加スルトキハ其モノ自ラ生産ニ益ナキ
ニナラス生産的ノ使用スルヘキ他ノ經費ノ必

困り饑食し國家、生産力ヲ阻害スルヲ免
レ故ニ三十二年度、豫算編成ニ際シテハ
成ルヘク不生産的經費ヲ減少シ餘裕アレハ
以テ生産的經費ニ充ツルノ方針ヲ執リ生産
運輸交通教育ノ等直接間接生産ニ有益
ナル經費ニ重キヲ置キシルニ反シテ軍費
ニ對シテハ其濫増ヲ防遏スルニ力メテ蓋シ
財政ト經濟ト相伴ハスルニ於テ財政ノ為經濟ヲ
破壊セハ遂ニ財政自ラモ失敗ニ終ルヘク
就中實際限セテ不生産的經費ヲ増
加セハ單ニ財政智識ノ淺キノミナラ
ズ早晚之カ紊乱ヲ来スニトテ深ク憂ヒ
ルニ由ル

斯ノ如ク一定ノ方針ヲ以テ經費ノ性質ヲ察
シ之カ節約ヲ試ミルニモ關ラズ國家カ
當ニ經營スヘキ急須ノ事業少ナカラザル
カ爲メ三十二年度總豫算ニ於ケル歳出貳
億千八百餘万円ニ加フルニ追加豫算ニ於
ケル歳出千餘万円ヲ以テスルトキ、其金額ハ
貳億三千萬円以上ニ達シ既定ノ歳入八億
億八千九百萬円ニ過キザルヲ以テ差引
四千餘万円ノ不足トナル此金額ハ何レカノ
途ニテ之ヲ補填セザルヘカラス
今若シ此ノ不足ヲ國債ニ依頼スルトセシ
カ是レ實ニ財政計畫上其者ヲ失スルノミ
ナラス經費濫増ノ端緒ヲ開キ財政ノ基礎

薄弱ナラシムモ今ナリ故、此ノ不足額、
補填ハ決シテ之ヲ負債ニ求ムヘカラス然ラ
ハ清國ヨリ領收セル所ノ債金ヲ以テセンカ
是レ亦國債ヲ以テラント強ト同一ノ非難ヲ
免ル、コト能ハサルノミナラス領收債金總
額三億六千貳百餘万円ヨリ既定ノ計畫
ニヨリテ減金會社切替ヲ行ハ既ニ使用シ又ハ
使用セシトスル費途ノ定マレル金額貳億
八千九百餘万円ヲ扣除スルトキハ尚ホ七千
餘万円ヲ餘スノ計算ナリト雖モ三十二年
迄ハ現金金ニ不足ヲ告ケ且ツ此内五千万円
ハ非常準備基金ニ信シ貳千万円モ亦
帝室費ノ不足ヲ補フノ用ニ供スヘキ見込

ナルカ故ニ債金ヲ以テ經費ノ不足全部
ヲ補充スルコトハ事實ノ行サハル所ナリ
果シテ然ラハ此ノ四千万円ノ不足額ハ國債
ハ勿論債金ニ求ムヘカラス即チ經常ノ
歳入ヲ以テ支辨スルノ外ナキナリ換言スレ
ハ國家ノ財政ヲシテ革固ル基礎ノ上ニ
立タシメント欲セハ増稅ノ手段ニヨリテ確
定永久ノ歳入ヲ得ルノ途ヲ講セサルヘ
カラス
然レモ租稅ノモノモヤ一般經濟ト密接ナル
關係ヲ有ス故ニ若シ其方法ヲ撰ハス徵收ノ
便ノミヲ圖リテ漫リニ増稅ヲ行ハ膏血人
民ニ過重ノ負擔ヲ爲サシムニ止マラス國家ノ

生産力ヲ妨害シ財政ノ爲メ一般經濟ニ損
害ヲ興フルノ虞モアリ今日止ムコトヲ得スレ
テ増稅ヲ爲スニ方リテモ勉メテ生産者ノ
負擔ノ増加ヲ避クヘキ方針ヲ樹テセリ隨
テ不生産的消費ニ課稅スルコト、酒稅
ヲ増課シ葉烟草ノ臺下價格ヲ引上ケ
新ニ砂糖稅ヲ起スト同付ニ此等消費
品其他之ニ障害ヲ与フヘキ輸入品ニ
對シテハ均衡的課稅ヲ爲サント欲スルニ
テ右酒稅ノ増加葉烟草臺下價格ノ
引上及ヒ砂糖課稅ニテテ今一ヶ年
度ノ收入凡四千萬圓ヲ得ヘキ見込ナリト
雖モ尚ホ多シ

少ノ不足ナキコトヲ得ス仍テ所得稅
及ヒ登録稅法ニ改テ加フルト同付
ニ多少ノ増率ヲ施シ更ニテ中
ニ對シ課稅ヲ行フ等ノ方法ニテ
四五百萬圓ノ收入ヲ得テ之ヲ充テシ國
家ノ策出入ヲシテ其ノ平衡ヲ得セシメテ
期ス
然レニ或ハ此ノ増稅方針ヲ非難シテ曰ク
斯ノ如ク數多ノ稅種ニ依テシ零
碎ノ策入ヲ掃キ集メテスルカ如キハ財政
ノ最モ拙ナルモノニシテ且ツ其安固ヲ缺クモノ
ナリ今ヤ米價大ニ騰貴シテ地租ノ負擔ハ
前日ノ半ニ値ラス何ヲ斷シテ地租ノ増加ヲ

行ハサレ其之ヲ為サレモノハ区々々行懸ニ
過キサレノミト徑畫ノ巧拙トテ敢テ問ハス
地租ノ増加果シテ國家ノ利益ナラトセハ
区々々々行懸ノ如キハ細事ノミ豈之カ為
メニ躊躇スヘケヤ抑モ之ヲ不可ナラトス
由ハ他ノ了今ヤ地租改正ノ當時ニ二十
任年ヲ經過老ノ結果地租ハ強ト土地
ニ付着スル天然ノ不利益ト同一ノ状態
トナレハカ為メ地租コレテ土地ノ收穫ト比例
セサレコトアルモ其不公平ナルヤ土地ニ豊
瘠アルト強ト同一視スヘキモノトテ更
ニ地租ヲ増加セシトスルトキハ茲ニ新
ナル不公平ナルヲ生スルキカ好ニ巨額ノ

經費ヲ投シテ地價修正ヲ決行スルノ
必要ヲ生スヘシ然ルニ地價修正ノ事タル
決シテ容易ノ業ニアラサルノミナラス其
費ス可シ以テ得ル所ヲ償フニ足ラス
而シテ地租ノ増加ハ直接ニ生産者ニ
向ヒテ課税スルコトナルハ此ノ如キハ既
ニ陳述セル強産ニ課税セスト云フ財政
ノ方針ニ及スルヲ奈何モ且リ國家ノ
財政ニ平常ノ日ニアリテ其ノ財源ニ於
テ多少ノ餘裕ヲ存スルコトヲ要スル
少ノ餘裕ナキトキハ國家財政上ノ信用
ヲ薄弱ナラシムルニ止マラス一旦事アル
日ニ際シテハ是レ困厄ノ地ニ立タサルコト

ラ得ス而シテ各種ノ消費税ナルモノハ一
國經濟上ノ進歩ト共ニ増加シ頗
伸縮力ニ富ムラ以テ平常ノ日ニ於テ
財政ノ基礎ヲ此ニ置クハ失當ナラスト
雖モ事アルノ日ニ臨ミテハ減少スルラ
免レス之ニ及レテ地租ハ一定ノ地價ニ
送ヒテ賦課スルモノナラ以テ國家緊
急ノ必要アルトキハ一令ラ發シ多少ノ
増率ヲ為ストキハ忽ケ巨額ノ收入
ヲ得ル其收入タルヤ事ニ臨ミテ邊
收縮スルノ患ナキモノナリ此ノ如キモノハ平
常ノ事ナキノ際ニ於テ國家緊急ノ用ニ
供スル為ノ保存スルモノ最モ適當ナル財源

ナリ且ツ地方財源ノ増加ヲ要スル今日
地租ヲ増加スルトキハ地方ノ財源ヲ奪ヒ
然ラサレハ土地負担ノ過重ヲ招クヤ必キ
既ヤ地租ニ依頼スルモノ畢出入ノ権衡ハ
保テ得ラレハ以上ハ地租ヲ徴收セサレハ
財政ノ基礎安固ヲ缺クト謂フヘカラス
以上ノ方針ニヨリテ増税ノ経畫ヲ為シテ
ト金庄酒税ニ於テハ細期ノ關係上全年
分ノ増加收入ヲ得ルコト能ハス又砂糖税
ニ在テモ其實施ハ改正條約ノ實施ニ
伴ハサルヘカウサルヲ以テ明治三十二年七月
以後ニアラサレハ之ヲ決行スルコトヲ得ス為メ
之毎全年分ノ收入ヲ得ルコト能ハサルノ事

情アハヒヨリ止ムトテ得ス三十二年夜ニ
限リ新夕ニ増加スル軍事費中砲台
建築費初度調辦費等一付償金
ノ内ヲ流用支辨シ其他電信製糖所
ノ擴張改良費ノ如キ生産的ノモノハ債
支辨ト為スノ經費ヲ立テタリ然レトモ
償金ヲ以テスキ金額ノ如キハ明法三十
三年夜ニ於テ増税ノ全年分お入ラ
得ルニ至レハ經常入ラ以テ支辨シ
得ルノミナラス今後更ニ經費ノ増増
スルコトナキヲ得、該年度ニ於テ尚ホ五
百至百餘ノ剩餘アルノ見込ナリ果シテ
然ラハ此ノ財政ハ經費ハ不確實ナリト

評シ難キノミナラス事ノ茲ニ至レルハ茅
十二回議會ニ於テ増税法案ノ面
サレシ自然ノ結果ニシテ抑モ亦止ムラ
得サルニ出ラ
加フルハ必要ノ經費支辨ノ為メ増税
ヲ行フト共ニ國家生産力ノ發達増強
ヲ圖ル爲メ輸出税ノ如キハ斷然速ニ之ヲ全
廢シ外國貿易ニ對スル障害ヲ除キ
印紙稅法ヲ改良シテ日常ノ取引就中
手形使用上便宜ヲ圖リ又北海道水産稅
及北海海運地方稅ノ如キハ總額稅ノ
如キ煩雜ニシテ勞費多ク比レテ其ノ
收入ノ少キニシテ勞費多ク比レテ其ノ

若くは一地方一新局に偏する担税之ヲ
廢止し尙ホ旧法に屬し不備ノ点多クキ
其ノ整理ヲ爲サント欲ス主眼トスル所一定ノ方針
ヲ以テ増税ニ爲スト同時、担税制尙ノ
整理ヲ圖ルニシテ

其他行政組織之改良ヲ加へ其整理辦法ヲ圖
リ俸給全額之削減ヲ施ス若シ下級官吏ノ俸給ヲ
裕ニシ或ハ一少數ノ人負テ以テ敏活ニ行政事務ヲ行
行スルコトヲ期シタリ然レトモ主眼、俸給削減ノ如
ク人負テ居ルニ任費ヲ減少シテ任費ノ増加ヲ
回避クルト同時、或ハ一層緊要ナル費用途ノ
用ニ供スルコトヲ示シテ之ヲ生る減額ニ百餘万円ニ
シテ財政缺乏ノ際亦棄ツヘキモノニアラザリ

公債ノ事ニ至リテハ既定ノ經畫ニ屬スルモ
ノ、外成ルヘク新ニ起債スルコトヲ避ケント欲
ス蓋シ經濟上ノ現状ニ徴スレハ内地に於テ公
債ヲ募集セシコトハ今暫ク望ミ難キヲ以テ
勢ヒ外國市場ニ訴ヘサルヘカラス而シテ既定
ノ經畫ニ屬スル公債ニシテ必要増加ニヘキモ
ノヲ加算セサルモ其募集未済ノモノ現ニ七億
七千餘万円アリ増加額ヲ加算セハ其額尙
ホ昂騰センモ知ルヘカラス此以外ニ債金ヲ
以テ一時募集ニ應シ若クハ金融ヲ緩和和
スルノ目的ヲ以テ市場ヨリ買入レムル公債
ニシテ政府ノ所有ニ屬スルモノ五千六百餘万
円アリ之ニ加フルニ昨年、倫敦ニ賣却セシ

公債四千三百萬圓ヲ以テスルトキハ合計貳億六
千九百餘萬圓ハ外國之關係ヲ有スル外債
トナル若シ此利子ヲ壹箇年一五分ナリトセハ
千三百五拾餘萬圓トナリ之金ヲ三十箇年ヲ
以テ償還スルモノト假定セハ毎年九百萬圓
ヲ償却スルコトヲ要シサナリトモ此ノ數年
間向ハ年々貳千貳百萬圓餘ヲ外國ニ支
拂ハサルヲ得ス幸ニ輸出超過ニヨリテ之ヲ
償得ハ可ナリ今日マテノ如ク輸入超過ノ
趨勢猛烈ナルトキハ正貨ヲ以テ支拂フノ外
ナリ果シテ然ラハ忽ニシテ正貨ノ流出兌換
準備ノ減少ヲ喚起スヘシ故ニ此ノ上更
ニ新ニ公債ノ募集ヲ要スル事ヲ業ヲ計畫

シ然モ外債ヲ起シ年々外國ニ對シテ仕拂
フヘキ金額ヲ増加スルハ假令其ノ公債ニヨリ
テ得タル金額ハ之ヲ融通ノ如キ生産的事業
ニ用ユルト假定スルモ正貨支拂ノ増加ハ必
然ノ結果ナルヲ以テ大ニ注意シ要ス然レモ
電信及ニ製鉄所ヲ完成スルカ如キ一ハ文
通ノ便ヲ因リ一ハ軍事上并ニ工業上ノ獨
立ヲ圖ルカ為メ必要ナル生産的事業ナルヲ
以テ止ムコトヲ得ス之ヲ起債ニ讓リテ蓋シ
外國ニ於ケル起債タル政府獨リ之ヲ慎ムノ
意ヲ盡ク用ユルヲ要ス我邦ノ如キ新進ノ
國ニ在リテハ資本ノ缺乏ヲ感スルハ免レ難

キ所ナルヲ以テ外資ノ輸入ハ望マサルヲ得ス
ト雖モ亦猥ニ各種ノ方面ヨリ乱雜ナル方法
ヲ以テ其使用如何ヲモ顧ミス急激無謀
セテ輸入ノ多キヲ懸ツカ如キハ決シテ國家
永遠ノ利益ニアラサルヲ以テ別ニ一ノ機關
ヲ設ケテ其適宜ナルヲ測リ使用宜キヲ得
セシメ且ツ銀行ノ各業整備ヲ完カラシ
ムト欲ス即チ動産銀行是レナリ
基濟ノ財政ニツキテハ之ヲシテ一日モ速ニ
自立自營ノ域ニ達セシムルコトヲ期シ國庫
ヨリ其經費ノ不足ヲ補乏スルコトハ漸次
之ヲ廢止スルノ方針ヲ執リ是奉復金
ノ内ヨリ支辨セ補乏費ノ如キ明治三十二

年ニ至リ以降ハ一般歳入ヲ以テ之ヲ支辨
スルノ徑画トセリ
之ヲ要スルニ時政ニ関スル一般ノ方針ハ若以
上陳述セルカ如シ然レ氏既定徑畫ノ事業
ニシテ遂ニ中止スヘカラザルモノアリ又議會
開會時日ノ切迫セル為ノ豫美ノ調製ヲ
急キタルアリ其他納期ノ関係ヨリ増稅ニ於
テモ全年ニ及分ノ收入ヲ得ルコト能ハサルモノ
アリ為メノ意ノ如ク充分ニ時政上一定ノ方
針ヲ貫徹スルコト能ハサルハ深ク遺憾
トスル所ナリト雖モ明治三十二年ノ豫美
ハ財政ノ鞏固并ニ租稅制ヲ行政担荷ノ
整理ヲ圖ルト同時ニ國家ノ生産ヲ尊重

一般に信倚ヲ助長スヘキ主義方針ヲ以テ
編制シタルモノナリ若シ此ノ主義方針トウキ
見ル所ナク異ニスレハ則チ止ムるモ國家ノ大計
上此ノ主義方針ニシテ是ナリトセハ財政経
畫ノ此以外ニ出テ難キハ立毫モ疑ラズ答レ
サレタリ